

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成16年 8月30日)

事業コード	H16-建-継-20			区 分	国庫補助・ 県単独
事業名	地方特定道路整備事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	道路改築(バイパス+現道拡幅)			課室班名	道路建設課 地方道班 (tel) 2485
路線名等	(主)横手大森大内線			担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	大森町中房			担当者名	主幹(兼)班長 小田 修
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	4	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備	
	目標コード	2	施策目標名	県道の整備促進	

1. 事業の概要

事業期間	H11~H17(7年)	総事業費	10 億円	国庫補助率	-		
事業規模	延長L=1,630m 幅員(構成)W=11.0(2.5-1.25-6.0-1.25)						
事業の立案に至る背景	当該区間は、人家連担地域であるが道路幅員が5mの隘路となっており、生活道路の整備による地域住民の安全性を確保し、横手平鹿地域の道路ネットワークの強化による地域間交流と連携を促進するためバイパスと現道拡幅整備を行うものである。						
事業目的	交通の安全確保と円滑化の推進 道路の防災対策・危機管理の充実						
事業費内訳	(単位:千円)						
		全 体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降	
事業内容	事業費	1,020,000	713,000	200,000	107,000	0	
	経費内訳	工事費	698,000	483,000	116,000	99,000	0
		用補費	132,000	74,000	53,000	5,000	0
		その他	190,000	156,000	31,000	3,000	0
	財源内訳	国庫補助					
		県 債	918,000	641,000	180,000	97,000	0
	その他						
一般財源	102,000	72,000	20,000	10,000	0		
事業内容	H14まで900m 部分供用済	測量設計 用地補償 改良工 橋梁工 舗装工	用地補償 改良工 橋梁工	改良工 舗装工			
事業推進上の課題	特になし						
上位計画での位置付け	総合計画における施策「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業						
関連プロジェクト等	特になし						
事業を取り巻く情勢の変化	当該区間の起点川側は改良済みであり、終点側についてもH14に地方道道路改築事業により整備完了となったことから、未改良の同区間について早急な事業完成が要望されている。						
事業効果把握の手法及び効果	指標名	路線改良率		データ等の出典	道路現況調書		
	指標の種類	成果指標 業績指標					
	指標式	路線改良済延長/実延長		把握の時期	平成16年 7 月		
	目標値 a	99.0%					
	実績値 b	95.4%					
達成率 b/a	96.3%						

前回評価結果等	選定または継続	改善	保留または中止
	指摘事項		
	指摘事項への対応		

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	当該区間は「道路構造上の欠陥箇所数」も2箇所あり、幅員5mの狭隘道路となっている。 通学路指定区域であるが歩道もなく、同区間の改良が必要である。	8点
緊 急 性	当該区間は、狭隘で歩道もなく冬期交通にも支障や危険を伴っている。	3点
有 効 性	救急医療施設へのアクセス道路であり、地域防災計画においても重要な路線である。	30点
効 率 性	事業の費用便益比は1.35であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 12.0億円 ・総便益の現在価値 16.2億円 計画日交通量も3,000台以上となっている。	13点
熟 度	計画延長1,630mのうちH14まで900mが部分供用済みであり、残りの区間についてもH16の用地買収完了と工事着手の予定で事業を進めている。	16点
判 定	ランク (○) 救急医療施設へのアクセス道路であり、整備後の有効性は高いことから引き続き実施すべきである。	70点
総合評価	継続 改善して継続 見直し 中止	
	事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

当該事業については、コスト縮減に留意し着実な推進を図る。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

別表7 (21)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 (継続箇所) 事業コード (H16-建-継-20) 箇所名 (中房)

適用事業名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員 < 5.5m ・最小半径 < 100m ・最急勾配 > 5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上		8	6	5m
		2箇所		(6)		
		1箇所		4		
		0箇所以上		0		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 1.0 ・現道の旅行速度 30km/h ・現道の事故率 50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当		7	2	なし
		4件該当		6		
		3件該当		5		
		2件該当		4		
1件該当			(2)			
該当項目なし			0			
計			15	8		
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり		4	0	
		なし		(0)		
	市町村合併支援道路	位置づけあり		3	0	
		位置づけなし		(0)		
	交通量	増加している		(3)	3	
		増加していない		0		
	特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり		5	0	
なし			(0)			
計		15	3			
有効性	道路の位置づけ					
	生活圏30分形成道路等	該当する		(7)	7	
		該当しない		0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する		(7)	7	平鹿総合病院
		該当しない		0		
	地域防災計画画重要な道路	該当する		(7)	7	
		該当しない		0		
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い		(9)	9	
		低下傾向		6		
		必要性が低い		3		
計		30	30			
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)	1.0以上		(5)	5	B/C=1.35
		0.5以上~1.0未満		3		
		0.5未満		0		
	計画交通量	1,000台/日以上		(5)	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満		4		
		300台/日以上~500台日/未満		3		
		300台/日未満		0		
	コスト縮減	あり		5	0	
		なし		(0)		
事業中止による影響	既投資額の損失大		5	3	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失		4			
	既投資額の損失が少ない		(3)			
計		20	13			
塾度	事業の進捗進捗状況					
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了		10	8	
		5割以上完了		(8)		
		1割以上完了		5		
		1割未満		2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了		10	8	
		5割以上完了		(8)		
		1割以上完了		5		
		1割未満		2		
未着手			0			
計		20	16			
合計		100	70			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	70	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		